

# ふじのくに 静岡みなと通信

vol.21  
春10号  
2014.1.23



清水港全景

## ～ 目次 ～

- 静岡みなと通信「春10号」発行に  
寄せて(浜松市長) ..... 1
- 港湾関係行事予定 ..... 1
- みなとニュース ..... 2
- キラリ☆みなと〔清水港〕 ..... 9
- みなと自慢〔土肥港〕 ..... 11
- 港こぼれ話 ..... 13
- 静岡県港湾振興会の活動報告 ..... 15



三保の松原と富士山

# 静岡みなと通信「春10号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会評議員  
浜松市長 鈴木 康友



(浜名湖弁天島の夕陽)

周辺を海に囲まれたわが国には、1,000以上の港が存在しており、輸入物資の9割以上が港を介して国内に流通しております。また、災害時において、海路は陸路に代わる輸送路となり、私たちの生活を維持するために、重要な役割を担っております。

県西部地域の拠点港である浜名港は、浜名湖の入口に位置する遠州灘に面した唯一の港湾です。浜名港の利用船舶の多くは漁船で、小型定置網漁業や遠州灘におけるシラス、トラフグ漁などの沿岸漁業が盛んです。港内では、ウナギ、海苔、牡蠣、スッポンの養殖が盛んであり、港湾区域内にある舞阪漁港とともに重要な水産基地となっております。

また、浜名港湾内は、釣り、たきや漁等の観光漁業を通じて多くの人々から海洋レジャーの場として利用されており、平成24年度にはプレジャーボートの係留施設PBS（プレジャーボートスポット）の整備が完了し、秩序ある係留、魅力あるウォーターフロントの創造が図られました。

今後、浜名港湾内の整備事業としましては、港口東導流堤の老朽化が激しく、変状状況が著しいことから、波浪影響による災害防止対策が予定されております。

私たち「静岡県港湾振興会」は、港湾整備を進めるとともに、本誌や本会の活動を通じて港湾整備の必要性をご理解いただけるよう本年も積極的に活動してまいります。

皆様方におかれましては、今後の港湾整備や利用促進に一層のご理解、ご支援を賜れば幸いに存じます。

## 港湾関係行事予定 (平成26年2月1日～平成26年7月31日)

日 程	内 容	日 程	内 容
毎月第1(日)	海湖館朝市(湖西市)	5月下旬	第4回 御前崎みなとかつお祭り(御前崎市 御前崎魚市場)
3/16(日)～4/6(日)	風の花祭り(下田市 まどが浜海遊公園)	6月	オープンウォータースイミングレース大会(南伊豆町 弓ヶ浜海岸)
3/21(金・祝)	客船「にっぽん丸」入港 (静岡市 日の出埠頭)	6月下旬	第7回 静岡県ドラゴンボート大会御前崎市長杯(御前崎市 御前崎港)
3/30(日)	春季熱海海上花火大会	7月上旬	御前崎海水浴場開き(御前崎市 マリンパーク御前崎)
4/12(土)	春季熱海海上花火大会	7/18(金)～7/21(月・祝)	国際カジキ釣り大会(下田沖)
4/13(日)	外国客船「フォーレンドム」入港(静岡市 日の出埠頭)	7/20(日)	開港50周年記念事業 第14回 踊夏祭(焼津市 大井川港)
4/26(土)	宇久須キャンプ場オープン(西伊豆町 宇久須港内 深田クリスタルビーチ)	7/20(日)	田子浦みなと祭り(富士市)
4/29(火・祝)	開港50周年記念事業 第22回 大井川港朝市(焼津市 大井川港)	7/20(日)(予定)	マリンフェスタ・アタミ2014
4/29(火・祝)	外国客船「クリスタル・シンフォニー」入港 (静岡市 日の出埠頭)	7月中旬	SEA SIDE STATION 14 in SHIZUNAMI(牧之原市 静波海岸)
4月下旬	さから草競馬大会(牧之原市 さからサンビーチ)	7月中旬	白浜海の祭典・花火大会(下田市 白浜大浜海岸)
5月～8月第3(土)	舞阪漁港えんばい朝市(浜松市 舞阪漁港)	7月中旬	マリンフェスタ下田(下田市内)
5/1(木)～5/5(月・祝)	第39回初島 ところ天祭り	7/21(月・祝)	網代ベイフェスティバル
5/10(土)	第42回 沼津水産祭(沼津市 沼津港)	7/21(月・祝)・7/26(土)	夏季熱海海上花火大会
5月上旬	さから凧あげ大会(牧之原市 さからサンビーチ)	7/24(木)	堂ヶ島火祭り(西伊豆町 仁科漁港)
5/16(金)～5/18(日)	黒船祭(下田市内各会場)	7/25(金)	しずなみ海水まつり花火大会(牧之原市 静波海岸)
5/24(土)・5/25(日)	清水港フラーショー&インポートバザール2014(静岡市 清水マリンターミナル)	7/30(水)・7/31(木)	伊東温泉「夢花火」Part1～2(伊東市 伊東海岸)
5/24(土)～5/28(水)	天草・ところてん祭り(西伊豆町 仁科漁港)	7月下旬	田子の浦港海上安全祈願祭(田子の浦港 吉原埠頭)



# みなとニュース



## 「かいがん ほ ぜん き ほん けい かく 海岸保全基本計画」の変更

### ◆ 海岸保全基本計画とは ◆

海岸保全基本計画とは、海岸法の改正（平成11年）に伴い、「美しく、安全で、いきいきとした海岸の継承」を基本理念とする国の定めた基本的な方針に基づき、海岸の災害からの“防護”に加え、“環境”の整備・保全及び適正な“利用”にも配慮し、総合的に海岸の保全を実施するため、都道府県が定める基本計画のことです。静岡県では、平成14年から15年にかけて「伊豆半島沿岸」、「駿河湾沿岸」、「遠州灘沿岸」の3沿岸で策定した基本計画に基づき、海岸の保全の取り組みを行っています。



総合的な海岸の保全イメージ

### ◆ 変更の背景 ◆

平成23年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」による津波被害を踏まえ、同年12月27日に国から「津波防災地域づくりの推進に関する基本的な指針」が示され、静岡県でも地震・津波対策の総合的な検討・見直しを進めてきました。そして、平成24年12月に「今後の地震・津波対策の方針」を策定するとともに、平成25年6月27日には、今後の地震・津波対策の基礎資料となる「第4次地震被害想定（第一次報告）」、対策の行動目標である「地震・津波対策アクションプログラム2013」を公表し、続いて11月29日には「第4次地震被害想定（第二次報告）」を公表したところです。

### ◆ 海岸保全基本計画の変更 ◆

これまでの津波対策では、東海地震（駿河湾側）、神奈川県西部地震（相模灘側）を想定していましたが、今回新たに想定対象となった、発生頻度が比較的高く津波高の低い「レベル1地震・津波」と、発生頻度が極めて小さいが甚大な被害をもたらす「レベル2地震・津波」のうち、前者に分類される東海・東南海・南海地震、大正型関東地震を“防護”の対象とし、海岸の保全と海岸保全施設の整備に関する基本的な事項を見直します。

見直しに当たっては、学識者・地元代表者及び市町長から構成される「海岸保全基本計画検討委員会」を設置し、様々な観点からご意見をいただきつつ、本年3月の変更・公表に向けて検討作業を進めています。



昨年11月5日に開催した3沿岸合同での検討委員会の様子

## 福田漁港にぎわい創出事業



地魚処「漁師のどんぶり屋」

遠州灘は、気象・海流の変化が激しく、海の難所と言われてきましたが、その激しい流れや、太田川、天竜川からの豊富な河川水の流入は、魚の成育に適した環境でもあり、身の締まった魚や貝がたくさん獲れます。磐田市の南東部・豊浜地区に位置する福田漁港では、シラス漁を中心に、遠州灘を漁場とした沿岸漁業が盛んに行われています。この豊かな水産資源を生かした福田漁港周辺地域の活性化を目指すため、現在、磐田市が様々な取り組みを行っています。

平成24年6月、福田漁港東側に、ビーチバレーやビーチサッカーなどができる福田漁港交流広場「ふくっば」が完成しました。この施設やロケーションを活用して、市をはじめ、漁協やNPO、企業、地元の各種団体がコラボレーションした各種イベントを実施し、老若男女が集う場を創出しています。さらに、食を通じた「人が集い、楽しみ、にぎわいを創出する」施設を計画するため、市の「福田漁港にぎわい創出事業」の一環として、ふくっば内に仮設店舗による「地魚処 漁師のどんぶり屋」を開設し、同年10月から市場調査を実施しています。この「漁師のどんぶり屋」は、遠州漁業協同組合、福田水産加工組合、福田鮮魚商組合の有志の皆さんが地域を活性化したいという思いで運営しています。

メニューや価格は、漁港周辺を訪れる釣り人やサーファーなどを対象とした市場調査、試食会でのアンケート、先進地視察、会議などを重ね決定しました。

平成25年11月、どんぶり屋と同様に地元有志の方たちで運営する「アンテナショップ(販売施設)」をどんぶり屋の東隣に開店しました。ここでは、鮮魚やしらす干しなどの水産加工品、農産物などを販売し、さらなるニーズ調査を行っています。

この二つの施設をきっかけとして福田漁港周辺が「食の拠点」となり、「人に伝えたい味」と「にぎわい」が創られることが期待されています。



アンテナショップ

## 県総合防災訓練

「防災の日」の9月1日、県は富士市と富士宮市で、南海トラフ巨大地震の発生を想定した総合防災訓練を実施しました。「田子の浦港」及び「ふじのくに田子の浦みなと公園」は、「沿岸部エリア」として、津波被害等に対処すべく様々な訓練が行われました。

田子の浦港では、地元住民と警察、水防団が津波避難タワーを活用した津波避難誘導訓練を実施したほか、自衛隊による防災拠点の開設・運営訓練、港の増深工事により発生した浚渫土の山を活用した土砂崩落救出訓練、輸送艇を用いた救援物資輸送訓練、津波堆積物の排除及び進入路啓開訓練等が行われました。

ふじのくに田子の浦みなと公園では、海岸沿いの広場に設置されたヘリポートに、米軍や航空自衛隊の中型ヘリコプターが次々と降り立ち、津波避難者の搬送訓練が行われました。沖合約1キロには、海上自衛隊の護衛艦「むらさめ」が海上救護所として停泊し、災害派遣医療チーム（DMAT）が、ヘリコプターで搬送された負傷者の受入などの医療支援体制を確認しました。

訓練は、富士市の14会場で43項目、富士宮市の11会場で26項目にわたり災害時の対応行動を点検し、計13万人が参加しました。訓練終了後の記者会見で川勝知事は「自助、共助が根付き始めていることは収穫だった。反省すべきところをそれぞれの現場で共有し、いざという時に備えてほしい」と述べました。



米軍ヘリによる負傷者搬送訓練



津波遭難者救助訓練



津波避難タワーへの避難訓練



土砂崩落救出訓練

## 待望の津波避難タワーが完成

平成25年9月、焼津市大井川港北岸壁に港湾従事者や釣り人など港に訪れた人達のための津波避難タワーが社会資本整備総合交付金事業を活用して完成しました。焼津市では人命第一との考えから、沿岸部の高い建物が少ない地域から順次、津波避難タワーの建設を進めています。

この避難タワーの周辺には企業約20社、450人が就労しており、安心して企業活動を行っていただくために整備しました。

津波避難タワーの最上部の高さは、海拔14.95m、昨年6月に公表された県の第4次地震被害想定津波にも十分対応できる施設として整備され、国会議員や県議会議員、国土交通省港湾局職員など多くの人が視察に来港しています。

焼津市では、大井川港振興会会員に呼び掛け、避難経路の確認や避難時の障害物の確認など合同の津波避難訓練を実施していますが、早くも会員の企業が独自でこの津波避難タワーを使用した訓練を実施するなど施設が活用されています。



来港者へ説明する内山管理事務所長



「振興会会員による避難訓練の様子(昨年12月実施)」

## 稲取漁港 漁港道路

稲取漁港が立地する稲取地区は、東伊豆町で最も人口の多い地区で、町の行政・経済・文化の中心地区として、また、温泉など観光資源を活用した観光産業やキンメダイ漁を主体とした水産業を主な産業として発展してきました。

こうした中、稲取地区は、古くから栄えた漁村であるため、地区内には昔ながらの狭隘な道路しかなく、夏季をはじめとする観光シーズンには、観光バス等の往来により、地区内は交通渋滞が頻発し、住民生活に不便を来していました。

このため、平成20年度から水産基盤整備事業により、地区内道路の渋滞解消や災害発生時における緊急物資の円滑な輸送を確保するため、漁港中心部から耐震強化岸壁を結ぶ約600mの漁港道路の整備に着手し、平成25年8月に完成しました。

漁港道路の完成により、稲取漁港へのアクセス向上も図られ、漁港機能の向上のほか、漁港が観光拠点の核として、地域活性化に寄与するものと期待されています。



整備が完成した漁港道路

## 田子の浦みなと祭り

平成25年7月14日、田子の浦港の「ふじのくに田子の浦みなと公園」において、第18回「田子浦みなと祭り」が開催されました。

当地で3回目の開催となった祭りは年々盛大さを増しており、今年の来場者はおよそ2万人に上りました。

祭りでは、数多くの出店に加え、纏太鼓やみこしの練り歩き、こども太鼓、中学校吹奏楽部による演奏、おじさん有志によるバンド演奏など、参加者が思い思いに趣向を凝らしてイベントを盛り上げました。

祭りのクライマックスは花火大会。1発1発が夏の夜空に鮮やかに大輪咲きし、会場は来場者の歓声に沸きました。



纏太鼓の練り歩き



こども太鼓



行政機関のパネル展



鮮やかな花火

## 首都圏企業に清水港をPR ～首都圏「清水港セミナー」～

清水港ポートセールス実行委員会（静岡県、静岡市、清水港利用促進協会）は、平成25年10月31日、都内で首都圏「清水港セミナー」を開催し、同港の利用拡大に向けて在京の船社、荷主企業など延べ850人に対してPRを行いました。このセミナーは平成4年に開始し、今年で22回目になります。

主催者を代表して鈴木与平実行委員長が挨拶し、「清水港はコンテナ取扱量が2年続けて50万TEUを超えたが、これも利用船社・荷主の皆様のおかげ」と参加者に謝辞を表した上で、「静岡県は全国有数の輸出入貨物を有するが、利用率の面で地元清水港の存在をまだ完全に生かしきれていない面もある。これからも関係者一丸となって利便性向上に取り組んでいきたい」と決意を述べました。

続いて、来賓として、望月義夫衆議院議員と山縣宣彦国土交通省港湾局長の挨拶をいただき、原隆一清水港管理局長が清水港概要説明を行いました。その後、伊藤元重東京大学大学院教授が「日本経済の見通し」をテーマに講演し、アベノミクスによって生じた日本経済の変化と、第3の矢（民間投資を喚起する成長戦略）によって期待できる効果についてわかりやすく解説されました。

その後開かれた懇親会では、森山誠二静岡県副知事が挨拶し、活発な意見交換が行われました。



セミナー会場の様子



講演する伊藤教授

## 清水港の秋の風物詩、帆船「日本丸」が入港!

平成25年10月18日(金)、帆船「日本丸」が清水港日の出埠頭に入港しました。誘致活動の成果が実り、最近は毎年秋に帆船が入港しています。日本丸の入港は今年で18回目です。

うっすらと富士山が見える幻想的な雰囲気の中、日本丸が入港し、歓迎の式典を行いました。望月薫清水港客船誘致委員会会長から富士山世界文化遺産にちなんだお菓子を贈呈し、日本丸船長からは日本丸の写真パネルをいただきました。

セイルドリルを行った19日(土)は、曇り空。しかし、富士山は、初冠雪の大変美しい姿を見せてくれました。10月1日に船に乗り込んだばかりの103名の実習生たちは、36枚全ての帆を同時に張ることははじめてとのことでしたが、きびきびとした動作で帆を広げ、見事に帆船の美しい姿を見せてくれました。

一般公開を行った20日(日)は、途中から本降りの雨となってしまいましたが、1,500人もの人が見学に訪れました。実習生たちも雨にも負けず、船内の様子、訓練の様子を説明していました。

21日(月)の出港はさわやかな秋晴れ。登しょう礼を見るために、1時間位前から多くの人が集まってきました。訓練生がマストに登り始めると、保育園児が手作りの旗を振り、小学生も岸壁の一番前で感嘆の声をあげていました。船が岸壁から離れ、「ごきげんよう」と訓練生が帽子を振る姿に目頭が熱くなりました。見物客の中には、日本丸をうたった曲を作成したとCDを持ってきた方や、山口県からきた方もいて、根強い帆船ファンの熱さを感じました。

来年の秋、清水港に帆船が訪れるのが今から楽しみです。

※ 登しょう礼…船の実習生がマストに登り、「ごきげんよう!」と別れのあいさつをする伝統の儀式



帆を広げた「日本丸」



歓迎式典の様子

## 今年は清水港にクルーズ客船が続々と入港予定

近年のアジアでのクルーズ人口の拡大を背景に、外国船社のクルーズ客船による日本発着ツアーが行われるなど、日本の各港へのクルーズ客船の入港が増加しています。

清水港では、これまでも毎年数回クルーズ客船が入港していましたが、今年は1月の「飛鳥II」(50,142トン)を皮切りに、「フォーレンドム」(61,214トン)、「クリスタルシンフォニー」(51,044トン)、「セブリティミレニアム」(90,228トン)などこれまで清水港に寄港したことのない船をはじめ、多数のクルーズ客船が寄港する予定となっています。

江戸時代の浮世絵にも描かれ、国内外に広く知られている富士山と駿河湾の織り成す絶景や、三保松原、白糸の滝をはじめとする自然景観と、桜えびやしらすなどグルメを組み合わせた周遊観光ルートなどをセールスポイントに、引き続き官民一体となってクルーズ客船の誘致を一層促進していきます。



クルーズ客船「飛鳥II」



## 「御前崎港セミナー」を開催しました

御前崎港ポートセールス実行委員会（静岡県、御前崎市、牧之原市、民間事業者で組織）は、御前崎港の利用促進を図るため、平成25年11月25日に浜松市内のホテルで県中西部の荷主企業や船社など約230人を集め、御前崎港セミナーを開催しました。主催者を代表し石原茂雄御前崎市長が挨拶し、「中部西部地域の物流拠点としての魅力を官民一体でアピールし、セールス活動に取り組む」と御前崎港の積極的な利用を呼び掛けました。

大須賀正孝浜松商工会議所会頭及び小谷野喜二中部地方整備局港湾空港部長の来賓挨拶に続き、進藤弘之静岡県御前崎港管理事務所長が御前崎港の概要と津波対策を説明しました。

また、野村彰男元国際交流基金日米センター所長による「世界から見た日本 日本から見る世界」と題した講演が行われました。

その後開かれた交流会では、大須賀淑郎静岡県副知事や鈴木修スズキ株式会社社長兼専務が参加し、活発な意見交換が行われました。



講演する野村彰男元国際交流基金日米センター所長

## フェルケール博物館で「ちきゅう」展開催

（独）海洋研究開発機構（JAMSTEC）が所有する地球深部探査船「ちきゅう」は、世界でも最高レベルを誇るライザー掘削システムを装備し、海底下から7,000メートルを掘削することができます。巨大地震発生メカニズムの解明、原始地球の生命誕生の謎に迫る研究などを行っています。清水港には年に何回か寄港し補給や点検などを行っており、清水港は「ちきゅう」の母港とも言える存在です。

この「ちきゅう」を多くの皆さんに知っていただくため、昨年1月、企画展「清水港と地球深部探査船「ちきゅう」」をフェルケール博物館で開催しました。「ちきゅう」の特徴であるデリック（掘削やぐら）をはじめ細部まで精緻に再現した模型、「ちきゅう」の航海実績や研究成果をまとめたパネルなどを展示し、多くの来場者が興味深く見学していました。

好評だったこの企画展を受け、フェルケール博物館では現在、「ちきゅうと海底資源—日本の海洋開発—」を開催しています。

昨年12月14日（土）の開会式では、港湾関係者や地元のファンなど50人余りが集まり、盛大に催されました。フェルケール博物館の漆畑潔館長による主催者あいさつ、JAMSTECの鷺尾幸久広報部長及び東海大学海洋学部の千賀康弘学部長の来賓あいさつの後、3名でのテープカットが行われました。

引き続き行われた内覧会では、今回の企画展をひと足早く見学することができました。前回も展示された「ちきゅう」の模型やパネルに加え、JAMSTECが所有する「ちきゅう」以外の船舶や無人探査機の模型、「ちきゅう」の掘削システムの模型など、ボリュームアップした内容を堪能できました。

その後、JAMSTEC海底資源プロジェクト海底熱水システム研究グループの熊谷英憲氏による講演「海底資源の科学—「ちきゅう」の貢献と今後—」が行われました。多くの聴講者が興味深く聞き入っていました。

今回の企画展は2月16日（日）まで開催されます。多くの皆さんの御来場をお待ちしております。



昨年12月24日に開催されたJAMSTEC  
熊谷英憲氏による講演



展示会場

フェルケール博物館  
静岡市清水区港町2丁目8-11  
Tel 054-352-8060  
※月曜日休館

# キラリみなと

～輝く人まち～

静岡市 清水港振興課

各港で取り組んでいる港を活用した地域おこしや、経済の活性化への取り組みを紹介していきたいと考えております。

参考としていただくとともに、紹介したい取り組みがございましたら、寄稿をお願いいたします。

## 世界文化遺産「富士山」を望む清水港の賑わいづくり

清水港はコンテナ取扱量全国第7位の国際拠点港湾です。平成25年5月には水深15mの清水港新興津コンテナターミナル第2バースが供用開始となり、300m級の大型コンテナ船の2隻同時入港が可能となりました。さらには、平成29年に中部横断自動車道の開通が予定されており、利便性が向上するなど、清水港の更なる発展が期待されています。

また、清水港は物流の場だけでなく、賑わいを創出する場でもあります。今後20～30年先の清水港のあるべき姿を示した「清水港ビジョン」において、複合商業施設“エスパルスドリームプラザ”が立地し、清水港と土肥港を繋ぐ駿河湾フェリーのターミナルがある「日の出地区」、魚市場“河岸の市”と冷凍マグロ水揚げ日本一という清水港の特色を生かしたマグロ料理店が集まる“まぐろ館”がある「江尻地区」、貯木場であった静穏な水域を利用し、プレジャーボートの係留施設など海洋レクリエーションの拠点を目指す「折戸地区」をにぎわいづくりの中心として描いています。

### 【世界文化遺産と清水港】

昨年6月の富士山世界文化遺産登録は、清水港にも大きな影響を与えています。

「清水港・みなと色彩計画」に基づきアクアブルーとホワイトで統一され、富士山を借景とする日本三大美港の清水港は、「清水港客船誘致委員会」の活動により、大型客船や帆船が寄港し、毎年秋には独立行政法人



帆を広げた日本丸(日の出埠頭)

航海訓練所が運航する練習帆船が寄港しています。帆船「日本丸」や「海王丸」と清水港、富士山を重ねた美しい姿をレンズに収めようと、カメラを持った多くの方々を訪れます。また、寄港中に実施されるセイルドリル・船内公開・登櫓礼<sup>とうじょうらい</sup>では、市内外からさらに多くの来場者が訪れ、清水港の賑わいづくりの一役を担っています。

また、海上からの富士を望むことが出来る、清水港と土肥港を繋ぐ駿河湾フェリーのルートが「県道223号<sup>ふじさん</sup>」として路線認定されました。観光目的の海上県道は全国初であるため話題を呼び、多くの観光客が清水港を訪れるきっかけの一つになっています。



県道223号(駿河湾フェリー)

### 【構成資産三保松原】

三保松原は約4kmの海岸線に5万本の松が茂る日本三大松原のひとつです。万葉集以降多くの和歌や絵画、浮世絵の題材となり、文化的・芸術的価値が認められ富士山世界遺産の構成資産として登録されました。その三保半島を清水港内の水上交通とサイクリングやウォーキングで気軽に楽しんでいただこうと、平成26年3月までの土日祝日、無料水上バス「ちゃり三保号」を運航しています。水上バスは自転車乗船料も無料で、乗り場近くや三保半島内の施設ではレンタサイクルもできます。船上から富士を仰ぎ、世界遺産構成資産（三保松原）と周辺の見どころ、食べどころをゆっくりと巡る旅が注目を集めています。



御穂神社から三保松原へ続く神の道



三保羽衣新能 能:羽衣

また、毎年秋に羽衣伝説発祥の地である三保松原で開催される「羽衣まつり」では、日本の伝統文化である、能「羽衣」や狂言などを上演する「三保羽衣新能」が開催されます。駿河湾の大海原を背景に、潮騒の響き、松林を揺らす秋風の中で上演され、幽玄な独特の世界を作り出します。

### 【賑わい創出拠点を繋ぐ】

“エスパルスドリームプラザ”には毎年400万人、魚市場“河岸の市”には毎年100万人の観光客・買い物客が訪れ、富士山の世界文化遺産登録により三保半島も大きく観光客が増加しています。

しかしながら、これらの賑わい創出拠点は点であり線ではありません。この点を繋ぎ線にして、回遊性を作り出すために、JR清水駅と三保半島を結んでいた旧国鉄清水港線跡地を利用した「遊歩道」（自転車歩行者道）の活用を推進し、まずは江尻地区と日の出地区を結び、官民連携したみなとの賑わい創出を目指しています。



ランプシェードを使用した遊歩道ライトアップ

# みなと“白慢”

～歴史と催し～

伊豆市建設部建設課

## 1. 土肥港の海上交通

伊豆市は、伊豆半島の中央部に位置し、直線距離で東京から約100km、静岡市から約60kmとなっています。

現在、伊豆縦貫自動車道天城北道路など広域幹線道路の整備が進む中、観光地にふさわしい陸の玄関口として修善寺駅周辺整備が進められています。

また、海の玄関口として、海上交通の充実のため土肥港の整備推進が望まれています。

地方港湾「土肥港」は、カーフェリー（清水－土肥航路）や高速旅客船（沼津－土肥航路）が発着する海上交通の要所であり、伊豆地域の海の玄関口として利用されています。



海上からの富士山

清水－土肥航路は、全国的にも例のない海の県道として平成25年4月に「ふじさん県道223号清水港土肥線」に認定され、平成25年6月には、富士山が「世界文化遺産」に登録されたことから、同フェリーの注目度は、各段に高まっています。海上から見る富士山の美しさは、また格別です。



カーフェリー

## 2. 土肥港の歴史

西伊豆の地形は山々が海岸までせまり、長い間陸路が不便であったことから、交通の手段は海に求められ、天然の良港を有した土肥は上り下りの船が絶えず、古来より寄港する海上交通の重要なポイントでした。

のちに海上運輸や水先案内を業とする「伊豆水軍」が登場し、その後高谷城や丸山城の城主であった富永氏の時代がありました。

また、天正年間に開坑された土肥の金山は江戸時代初期には幕府直轄となり、慶長大判小判の地金を産出し、徳川幕府の歴史を支えました。

漁業の発達による漁船の増加や金産出量増加により棧橋利用等による海運も盛んになったことから、港の整備は昭和4年頃より始まり、その後の整備を経て現在に至っています。

海上交通は、古くは汽船が運航され場所によっては「はしけ」による乗り降りの時代もあったようですが、後に沼津より就航していた「龍宮丸」など幾多の変遷を経て、昭和46年にカーフェリーが土肥一田子の浦港間に就航し、平成14年に土肥一清水間りゅうぐうまるに航路変更されました。また、高速旅客船が昭和49年に沼津一松崎間に就航し、現在は沼津一土肥間で運行されています。



金鉱石が棧橋で船積みされた頃の様子



屋形弁天の船着場

### 3.土肥の催し

温泉と金山で知られた土肥は、土肥海水浴場、小土肥海水浴場といった県内有数の海水浴場を有し、温泉に加え海水浴を楽しむ多くのお客様で賑わっています。



土肥海水浴場



海上花火大会

土肥港湾内では毎年8月には恒例となっている「土肥サマーフェスティバル海上花火大会」が開催され、7月には「天王祭」、10月には「土肥神社大祭」が地域のお祭りとして賑やかに開催されています。

南に位置する恋人岬では2月のバレンタインデーに合わせたイベントが開催され、カップルの姿で賑わいます。

また、海岸線では四季を通じて駿河湾に沈む夕陽は感動的で、地元の人たちや観光客の心を癒してくれます。

## 清水港新興津CT整備に伴う地元交渉

元静岡県建設部港湾局漁港整備室長  
廣瀬 正一



昨年5月、新興津コンテナターミナル(新興津CT)の第2バースが供用開始しました。

平成15年に供用開始している第1バースと共に、これで清水港は日本でも有数の国際海上コンテナ取扱機能を備えた国際貿易港として、静岡県の産業経済の発展に益々寄与していくことと思われま

す。これまでの新興津CTの整備は、多くの関係者の努力によりなし得たものでありますが、新興津CTの着工時における背後地興津地区の自治会役員たちとの地元交渉について触れたいと思います。

私は、平成11年4月に清水港管理局工務課に赴任しました。

当時本県では、21世紀を展望する『快適空間しずおか』を推進するための庁内プロジェクトが目白押し

の時期であり、港湾分野においてもこの年に『清水港開港100周年』のビッグイベントが開催されました。工務課としては100周年イベントの成功は勿論のこと、当時の港湾整備は『港の元気は暮らしの元気』をキャッチフレーズに、新興津CTの整備を着実に進めていくことでした。それまで約10年間続いた漁業補償交渉は、平成9年1月に基本合意に達しましたが、その後すんなりと新興津CTの着工とはいかず、平成10年度には、背後地興津地区から新興津CT整備の反対意見書が出る事態となりました。

新興津CTの整備は、地元にとって庭先を埋立する迷惑施設であり、地元からの反対は、漁業補償と違い法的に補償根拠は無いからといって、これを無視して強行突破をしようとするならば、県庁までむしろ旗が立つ勢いでありました。また県庁を含むオール港湾で、長期間かけてきた漁業補償交渉が合意したことや当時本県にとって最重要案件であった静岡空港問題があったことから、地元住民との合意形成を図ることを第一に考え、地元交渉を慎重に進めてきました。

平成10年11月には、興津連合自治会から『清水港港湾整備計画に係わる要望書』が提出され、これに基づき清水市・静岡県は平成11年3月に同要望書に対



清水港新興津地区(平成25年9月)

する回答書を提出してきました。この回答書の中で、地元・市・県の3者で『興津埠頭対策連絡会』とその下部機関である「埠頭部会」「人工海浜公園部会」「山間地開発部会」「まちづくり部会」の4つの専門部会を組織して、地元要望に対応していく旨回答してきました。

専門部会は、平成11年4月から地元の要請により毎月1回開催を原則に、地元からの要望事項を具体的に検討し合う場として設けてきました。

地元住民からしてみると平成11年10月に新興津CTの整備が着工し、平成15年に15m岸壁の1バースが供用開始していくことは、行政側の計画だけが進むことであり、地元住民が憩い潤う人工海浜の未着手や埠頭整備に伴い従来に加え更に国道渋滞を招くことにより、興津地区だけが取り残されるという危機感を持ったことから、市・県に対して興津連合自治会は、『人工海浜の同時着工』と『国道の渋滞対策』の2項目について、質問書を提出してきたことがありました。

この質問の回答内容如何によっては、興津連合自治会としては、再度工事中止のための反対意見書の提出を準備していましたが、『興津埠頭対策連絡会』での市・県からの丁寧な説明により、何とかこれを避けることができました。

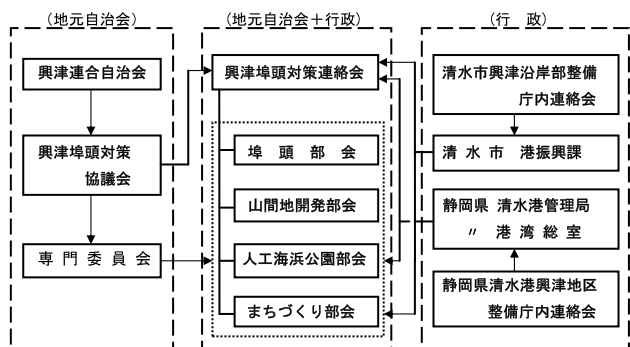
私が管理局に在職した3年間の『興津埠頭対策連絡会』における地元側の成果としては、国道1号静岡バイパスより北側に計画した新興津緑地の部分供用と地区センター(興津生涯学習交流館)の建設計画がありました。

新興津緑地については、数年先に完成のところを連合自治会長の熱意により、平成13年度後半に急ピッチで仕上げたことを記憶しています。

新興津緑地の計画箇所は、興津地区で唯一残っていた天然の砂浜であり、ここは、直背後にある幼稚園の遊び場にもなっていたことから、遊び場が無くなった園児たちにとって、新興津緑地を早めにオープンさせたことは、事業の早期発現も図れて結果的には正解であったと思っています。また地区センターの建設計画については、本来市の中で建設順位が低かった興津地区を港湾整備のために無理矢理早めたとかで、当時市も県と一心同体となり、かなり頑張っただけで汗をかいてくれました。

市・県側の成果としては、何よりも新興津CTの整備が滞りなく着実に進んでいったということでもあります。

### 興津埠頭対策連絡会の組織図



ここで、私にとって管理局在職中で最も印象深いエピソードを紹介します。

興津連合自治会の役員たちは、興津地区9町の自治会長の集まりであります。

赴任当初は、常に強い口調で敵対心むき出しの発言を浴びせられてきましたが、数ヶ月も過ぎると私の人柄や人間性にも理解してくれるようになり、役員たちとうまくコミュニケーションをとれるようになってきました。しかし2年目の5月のある日、“新”連合自治会会長が管理局に訪れ、他の自治会役員の中傷や辞任させたい旨の発言があったので「そんなことは言わずに仲良くやってください。」と言ったところ、それが気に入らなく怒って帰ってしまったことがありました。

会長を怒らせて帰ってしまったのは、今後の連絡会運営どころか新興津CT整備そのものに支障をきたす恐れがあったので、別の自治会役員に相談したところ「お詫びの手紙を出すように」と言われました。「それは出来ない」旨の返事をしたら、「連合自治会会議の開催時に役員たちの前で会長に謝罪するように」ということになってしまいました。私としては、地元の結束を

気にかけて心配して言ったことが、そもそも「仲良くやってください」発言で、なぜ謝罪しなければならないのかとは深くは考えないで、ただただ円満解決を図るため、連合自治会会議の開催会場に向かいました。

会議の場には、当然真摯な態度で臨んだわけですが、これを第三者的な目を見た場合、この時の会場は異様な光景であったかと思えます。

会議の冒頭、謝罪の言葉を述べたと同時に20人位いた役員たちの前で、会長から人差し指で指され「お前は……。」と大声で怒鳴られたのであります。

続けて会長シンパの役員数人からも次々と罵声かとんできました。それは、まさにその後数年間続いた『興津〇村劇場』の幕開けであったと思えます。

このエピソードにはまだ続きがあり、私の方には瑕疵も無いのに怒られ怒鳴られたので、少しは労いの言葉を頂こうかと内心思い、上司に経過報告をしたところ「それは上手に振り舞らない君が悪いんだろ」と言われてしまいました。この時は、外と内の両方から攻められた気分で多少のショックを受けましたが、「人は立場で仕事をする」ということを改めて実感させていただきました。

私が管理局に在職していた3年間で、興津連合自治会役員たちとの会議や打合せ日数は、全部で113日間あり、この内平成11年度には月平均4日のペースで行っており、多い時は1週間に3日という熱心な時期もありました。

現在、新興津CTとしては、前面の新興津防波堤や第2バース背後のコンテナヤードは未完成ではありますが、新興津CTが提案され第2バースが出来上がるまでの四半世紀の間に、興津連合自治会の役員の方々と接することができたことは、私にとって非常に貴重な体験をさせていただいたと感謝しております。



新興津緑地で遊ぶ園児たち

# 静岡県港湾振興会の活動報告

## 静岡県港湾整備促進大会を開催

平成25年8月1日、ホテルセンチュリー静岡において、多くの港湾関係者や行政関係者等の参加をいただき、港湾整備促進大会を開催しました。

田辺港湾振興会会長（静岡市長）のあいさつの後、森山静岡県副知事や渥美県議会副議長をはじめ来賓の方々からあいさつをいただきました。

出席いただいた市町長からは「地域の声」と題して意見発表していただき、大会の最後には、「静岡県の港湾整備の促進に関する要望」を満場一致で決議し、関係各方面に対して運動を展開していくこととしました。

また同大会に先立ち、一般財団法人みなと総合研究財団



田辺会長（静岡市長）あいさつ

大村哲夫顧問を講師にむかえ、「駿河湾港に期待



西原副会長（牧之原市長）による決議の読み上げ



講演の様子

## 経済と暮らしを支える港づくり全国大会に参加

平成25年10月24日、東京の砂防会館において、日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海岸防災協議会の港湾関係5団体の主催のもと、「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が開催されました。

当振興会からは田辺静岡市長、石原御前崎市長、をはじめ22名が出席しました。

大会では、多数の国会議員に来賓として出席していただく中、主催者のあいさつ、港湾所在市町村長が港湾整備振興に関する意見表明を行い、港湾整備の推進に向けた決議がされました。

大会に先立ち、ホテルルポール麹町で東海地区港湾協議会主催による国会議員との懇談会が行われ、田辺静岡市長が意見表明し、本県港湾整備への支援を訴えました。

大会終了後は、県内選出の国会議員へ要望活動を行いました。



経済と暮らしを支える港づくり全国大会の様子

### 編集後記 |

新春のおよろぎを申し上げます。  
平成25年10月16日（水）～18日（金）に予定していた県外港湾視察（北海道）は、台風26号の影響による航空機欠航の為、中止せざるをえなくなりました。  
参加予定の皆様と視察先の方々には、大変なご迷惑をおかけしました。  
今後ともたくさんの方が参加して下さるような県外港湾視察を計画していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（K.H.）

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。  
関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。

静岡みなと通信

編集・発行 静岡県港湾振興会

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部港湾局内  
TEL.054-221-3052 FAX.054-221-2389 E-mail:shizu.kouwan@gmail.com